

志賀高原「バンダイナムコの森」を活用し「バンダイナムコグループ環境サミット」を開催 約90名の社員が参加し森林整備体験などを実施

株式会社バンダイナムコホールディングス

㈱バンダイナムコホールディングス〔本社：東京都港区 社長：高須武男〕は、10月9日～10日の2日間、長野県志賀高原の「バンダイナムコの森」を活用し、グループ社員が環境活動や環境経営について考えるためのプログラム「バンダイナムコグループ環境サミット」を開催しました。

当日はグループを横断し実施している「環境プロジェクト委員会」のメンバーを中心に約90名のグループ社員が参加。「バンダイナムコの森」で森林整備体験や自然観察などを行ったほか、他社から講師を招いて先進事例を学ぶ講演や、社会・環境報告書を読むワークショップ、チームに分かれて経済と環境のバランスの大切さを学ぶゲームなど様々なプログラムを実施しました。

このほか今回の環境サミットは、期間中会場や乗り物から排出される二酸化炭素をグリーンエネルギーの購入によりゼロに相殺したほか、土に埋めると水や二酸化炭素に分解される新エコ素材を利用した弁当容器を使用、環境に配慮した仕様のバスや“マイ箸”の利用など、プログラム内容以外にもエコに配慮した企画となりました。

また長野県・志賀高原の地元の皆さんにもセミナーに参加いただいたほか、森林ガイドとしてご協力いただくなど、地域と連携して開催を行いました。

参加者達にとっては自然の中でプログラムを受けることで、改めて環境保全の大切さを実感することができた貴重な機会となりました。今後もバンダイナムコグループでは環境保全の理解を深めることを目的に「バンダイナムコの森」を活用したバンダイナムコグループらしい活動を実施する予定です。

バンダイナムコグループは、「夢・遊び・感動」を世界中の人々に提供し続けることを企業理念とし、「夢・遊び・感動」を提供し続けるためのCSR基本方針を定めています。今後もこの方針の通り、バンダイナムコグループらしい様々な活動に取り組んでいく予定です。



「バンダイナムコの森」について

バンダイナムコグループでは、2007年4月より長野県が橋渡しを行い森林の整備と利用に意欲を持つ地域と企業が連携して推進する「森林（もり）の里親促進事業」における「森林（もり）の里親契約」を財団法人下高井郡山ノ内町和合会との間で締結。これにより志賀高原（長野県山ノ内町）の約47ヘクタールの森林の里親となり、ここを「バンダイナムコの森」として（財）下高井郡山ノ内町和合会が行う森林整備作業の費用を一部負担するほか、グループ社員による森林整備体験や自然体験など森林保護と理解に繋がる各種活動の場として活用しています。